

新規事業採択時評価結果（平成30年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全課
担当課長名：森山 誠二

事業の概要

事業名	市道 川副中央幹線 北川副・川副工区	事業区分	地方道	事業主体	佐賀市
起終点	自：佐賀県佐賀市新郷本町 至：佐賀県佐賀市川副町大字福富	延長	3.1 km		
<p>事業概要</p> <p>市道川副中央幹線は、県道佐賀外環状線と国道208号、市道環状東みなみ線に接続し、県道佐賀環状東線につながる佐賀市南東部地区と市街地を結ぶ延長約3.1 kmの幹線道路である。また、川副町米納津地区には、有明海沿岸道路 川副IC(仮称)の整備が計画されている。</p> <p>市道川副中央幹線 北川副・川副工区は、有明海沿岸道路 川副IC(仮称)からの交通の円滑化に寄与し、有明海沿岸道路の整備と一体となり、交流圏の拡大や物流の効率化、交通渋滞の緩和、歩道整備による歩行者等の安全・安心な通行の確保に大きく寄与する道路である。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>市道川副中央幹線 北川副・川副工区は、県道佐賀外環状線、国道208号と有明海沿岸道路 川副IC(仮称)と連結することで、有明海沿岸道路の整備と一体となり、交流圏の拡大や物流の効率化、交通渋滞の緩和、歩道整備による歩行者等の安全性の向上に大きく寄与する道路である。</p> <p>全体事業費 4.6 億円 計画交通量 約4,300台/日 ～ 7,300台/日</p> <p>事業概要図</p>					

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.3	総費用：3.7 億円 （事業費：3.7 億円 維持管理費：0.26 億円）	総便益：4.8 億円 （走行時間短縮便益：4.4 億円 走行費用減少便益：3.1 億円 交通事故減少便益：0.41 億円）	基準年：平成29年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.41 (交通量+10%)	B/C=1.16 (交通量-10%)		
		事業費変動	B/C=1.17 (事業費+10%)	B/C=1.43 (事業費-10%)		
	事業期間変動	B/C=1.23 (事業期間+10%)	B/C=1.35 (事業期間-10%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	道路を整備することで、朝夕の慢性的な渋滞が緩和される。 【主要渋滞箇所 国道208号交差点（新郷本町交差点）付近】		
		事故対策	◎	道路整備により車の円滑な通行が可能となり、自転車歩行者道路を整備することで、歩行者・自転車においても安全な通行が確保出来、交通事故件数の抑制が図られる。		
		歩行空間	◎	自転車歩行者道路を整備することにより、自動車と自転車・歩行者との錯綜が解消し安全な通行が確保される。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	佐賀市街地及び佐賀市南東部地区から有明海沿岸道路 川副IC(仮称)までのアクセスが容易となり、幹線道路としての機能向上が図られる。		
		地域経済	○	道路を整備することで、有明海沿岸道路 川副IC(仮称)までの交通性能が向上し、生活圏の拡大や経済の活性化、観光地へのアクセス性が向上する。		
		災害	○	第一次緊急輸送道路である国道208号、県道佐賀外環状線と有明海沿岸道路 川副IC(仮称)からのアクセス道路となり、当該路線を整備することで緊急輸送道路の利用強化が図られる。		
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	◎	有明海沿岸道路と連結して、広域的なネットワークを形成し、佐賀市街及び佐賀南東部地区7へのアクセス性の向上が図られる。			
事業実施環境	○	・地元自治体等で組織される有明海沿岸道路建設促進佐賀県期成会などにより、要望活動を行い、事業実施に向けた機運が高まっている。				

関係する地方公共団体等の意見
佐賀市などの沿線自治体で構成されている有明海沿岸道路建設促進佐賀県期成会（佐賀市、鹿島市、小城市、白石町）等より、当該路線を含む有明海沿岸道路の早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
—

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている。

採択の理由

事業主体である佐賀市が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.3と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、交通渋滞の緩和、交通事故の抑制、佐賀市街及び佐賀南東部地区へのアクセス向上が図られるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
以上により、本事業を平成30年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。